

## 1. 学歴

- 2005年 3月 京都大学経済学部卒業  
2007年 3月 京都大学大学院経済学研究科修士課程修了  
2010年 3月 京都大学大学院経済学研究科博士後期課程修了  
2010年 3月 京都大学博士(経済学)学位取得

## 2. 職歴・研究歴

- 2010年 4月 国立環境研究所循環型社会・廃棄物研究センターポスドクフェロー  
2012年 4月 東京大学大学院新領域創成科学研究科環境学研究系国際協力学専攻助教  
2014年 10月 国立環境研究所資源循環・廃棄物研究センター研究員  
2014年 10月 経済産業研究所リサーチアソシエイト(現在まで)  
2017年 4月 早稲田大学環境経済・経営研究所招聘研究員(現在まで)  
2018年 7月 国立環境研究所資源循環・廃棄物研究センター主任研究員  
2019年 4月 一橋大学大学院経済学研究科講師(現在まで)  
2019年 4月 国立環境研究所客員研究員(現在まで)  
2020年 8月 農林水産政策研究所客員研究員(現在まで)  
2022年 5月 文部科学省科学技術・学術政策研究所科学技術専門家ネットワーク専門調査員(現在まで)

## 3. 学内教育活動

### A. 担当講義名

#### (a) 学部学生向け

環境経済学, 経済学入門

#### (b) 大学院

上級環境経済学I

### B. ゼミナール

基礎ゼミナール A

### C. 講義およびゼミナールの指導方針

環境経済学の講義では環境汚染や気候変動が人間の健康・経済に与える影響や損失の可能性についての議論から始める。その上で、環境汚染や温室効果ガス排出量を最適な水準にするための政策(すなわち環境政策)の必要性を論じる。そして、ミクロ経済学理論などの「ロジック」に基づいて政策を設計し、その政策案の試行や他地域での事後評価による「エビデンス」に基づいて政策手段の選択を行うという考え方を学ぶ。これにより、政策形成を合理的に行うための思考法を養う。さらに、国内外の具体的な環境問題・政策の事例を共有する。

上級環境経済学 I では環境経済学の学術論文を読むための訓練を行う。また、日本における実際の環境政策の事例について学ぶ。これにより、環境政策研究における専門的知識を収集する能力を習得することが目標である。同時に、環境政策研究の手法やトピック、発見についての最先端の知識を共有することを目指す。

#### 4. 主な研究テーマ

- (1) アジア諸国を対象とした環境政策の設計と評価
- (2) フィールド調査・実験を用いた環境経済学的研究
- (3) 社会的選好と主観的信念を考慮した環境政策研究

#### 5. 研究活動

##### A. 業績

##### (a) 著書・編著

"International aspects of waste management: The waste haven effect on global reuse Edward Elgar," *Handbook on Waste Management*(分担執筆), 2014, pp.216-237.

「ポーター仮説」『環境経済・政策学事典』(分担執筆), 2018年, 丸善出版。

「環境・エネルギーにおける EBPM」『EBPM: エビデンスに基づく政策形成の導入と実践』(分担執筆), 2022年, 日本経済出版社。

##### (b) 論文(査読つき論文には\*)

"Heterogeneous firms, the Porter hypothesis and trade," KSI-Communications DP, 2009-001, 2009.

\* "An economic theory of reuse," *Sustainability Science*, Vol.5, No.1, 2010, pp.143-150.

\* "The Environmental Consequences of Global Reuses," (Thomas C. Kinnaman との共著), *American Economic Review: Papers and Proceedings*, Vol.101, No.3, 2011, pp.71-76.

\* "Global Reuse and optimal waste policy," (Thomas C. Kinnaman との共著), *Environment and Development Economics*, Vol.18, No.5, 2013, pp.595-614.

\* 「家庭ごみ分別制度と社会的規範—日本とシンガポールにおけるアンケート調査の比較—」(和田英樹, 山田正人との共著), *環境経済・政策研究*, 8(1), 2015年, pp. 85-88.

\* "Cooking Fuel Choices -Analysis of Socio-economic and Demographic Factors in Rural India," (Mriduchhanda Chattopadhyay, Toshi H. Arimura, Hajime Katayama, Mari Sakudo との共著), *環境科学会誌*, 30(2), 2017年, pp. 131-140.

\* 「ランダム化比較試験を用いた途上国における環境経済学研究の現状と展望」, *環境経済・政策研究*, 10(1), 2017年, pp. 19-23.

\* "Job change and self-control of waste pickers: evidence from a field experiment in the Philippines," (Maki Ikuse, Aries Roda D. Romallosa, Masahide Horita との共著), *Environmental Economics*, Vol.9, No.2, 2018, pp.22-35.

\* "Informal recycling and social preferences: Evidence from household survey data in Vietnam,"(Kosuke Kawai, Yuki Higuchi との共著), *Resource and Energy Economics*, Vol.54, 2018, pp.109-124.

\* 「有料化によるごみ排出量の抑制効果—「平成の大合併」の影響—」(都筑研哉, 鈴木綾との共著), *廃棄物資源循環学会論文誌*, 29, 2018年, pp. 20-30.

\* 「植田先生に招待された廃棄物とリサイクルの経済学の展望—途上国・行動経済学・フィールド実験—」, *環境*

経済・政策研究, 11(1), 2018 年, pp. 30-38.

\*「社会的ネットワークがウェイト・ピッカーの有価物収集活動に与える影響—フィリピン共和国イロイロ市カラフナ  
ン最終処分施設を事例として—」(田村響, 堀田昌英との共著), 廃棄物資源循環学会論文誌, 29, 2018  
年, pp. 266-278.

\* "A model of inequality aversion and private provision of public goods," *The B.E. Journal of Theoretical  
Economics*, Vol.20, No.2, June 2020.

\* "Subjective probabilistic expectations, household air pollution, and health: Evidence from cooking fuel use  
patterns in West Bengal, India," (Mriduchhanda Chattopadhyay, Toshi H. Arimura, Hajime Katayama, Mari  
Sakudo との共著), *Resource and Energy Economics*, Vol.66, 2021, 101262.

"Ethics of randomized field experiments: Evidence from a randomized survey experiment," Graduate School of  
Economics, Hitotsubashi University Discussion Paper Series No.2020-07, 2020.

\* "Ambiguity aversion and individual adaptation to climate change: Evidence from a farmer survey in Northeast  
Thailand," (Nagisa Shiiba, Voravee Saengavut, Siraprapa Bumrungrkit との共著), *Climate Change Economics*,  
2023, doi: 10.1142/S2010007823500057

\* "Conservation fundraising: Evidence from social media and traditional mail field experiments," (Takahiro Kubo,  
Diogo Verissimo との共著), *Conservation Letters*, 2023, doi: 10.1111/conl.12931

\* "Subjective risk belief function in the field: Evidence from cooking fuel choices and health in India," (Toshi H.  
Arimura, Mriduchhanda Chattopadhyay, and Hajime Katayama との共著), *Journal of Development Economics*,  
Vol.161, 2023, 103000.

### (c) 翻訳

『サステナビリティの経済学—人間の福祉と自然環境』第 14 章, 第 15 章, 2007 年, 岩波書店。

### (d) その他

「環境分野における「エビデンスに基づく政策立案」とは? —日本の政策評価の現状と展望」, 環境情報科学,  
48(1), 2019 年, pp.25-29.

[書評]E・デュフロ+R・グレナスター+M・クレーマー著/小林庸平監訳・解説, 『政策評価のための因果関係の  
見つけ方』, 経済セミナー10・11 月号, 2019 年 9 月。

## B. 最近の研究活動

### (a) 国内外学会発表(基調報告・招待講演には\*)

"Subjective beliefs and estimated risks: Evidence from cooking fuel choices and health in India," The 6th World  
Congress of Environmental and Resource Economists, Gothenburg, Sweden, 2018 年 6 月 26 日.

"Subjective beliefs and estimated risks: Evidence from cooking fuel choices and health in India," 日本経済学会  
秋季大会, 学習院大学, 2018 年 9 月 8 日。

「公衆衛生改善のための説得的コミュニケーション・ツールの開発と評価: インドネシアにおけるランダム化フィー  
ルド実験からのエビデンス」環境経済・政策学会, 上智大学, 2018 年 9 月 9 日。

"Subjective beliefs and estimated risks: Evidence from cooking fuel choices and health in India," The 12th Annual  
Meeting of the Environment for Development (EfD) Initiative, Hanoi, Vietnam, 2018 年 11 月 4 日。

「公衆衛生改善のための説得的コミュニケーション・ツールの開発と評価: インドネシアにおけるランダム化フィー

ルド実験からのエビデンス」, 第 22 回実験社会科学カンファレンス, 名古屋市立大学, 2018 年 12 月 22 日。

"Persuasive communications on take-up of a pay sanitation service: Experimental evidence from Indonesia," Western Economic Association International (WEAI) International conference, Keio University, Japan, 2019 年 3 月 22 日。

「経済学者による RCT は倫理的に問題か? 日本における RCT 型ウェブ調査からのエビデンス」, 日本経済学会 春季大会, 武蔵大学, 2019 年 6 月 9 日。

"Face-to-face communication on take-up of paid sanitation services: Experimental evidence from Indonesia," Association of Environmental and Resource Economists (AERE) Annual Summer Conference, Virtual, 2020 年 6 月 4 日。

"Face-to-face communication on take-up of paid sanitation services: Experimental evidence from Indonesia," European Association of Environmental and Resource Economists (EAERE) Annual Conference, Virtual, 2020 年 6 月 25 日。

"Face-to-face communication on take-up of paid sanitation services: Experimental evidence from Indonesia," Environment for Development (EfD) Initiative 14th Annual meeting, Virtual, 2020 年 11 月 16 日。

"Ethics of randomized field experiments: Evidence from a randomized survey experiment," International Workshop for Lab and Field Experiments, Virtual, 2021 年 3 月 18 日。

"The asymmetry of intergenerational fairness preferences: Evidence from a randomized survey experiment," European Association of Environmental and Resource Economists (EAERE) Annual Conference, Rimini, Italy, 2022 年 6 月 30 日。

## (b) 国内研究プロジェクト

科学研究費若手研究(B)「途上国におけるランダム化実験による環境公共財の私的供給の研究」(研究代表者), 2017-2018 年度。

科学研究費挑戦的研究(萌芽)「ランダム化比較試験を用いた環境・エネルギー政策研究の手法確立」(研究分担者)(研究代表者:野村久子), 2017-2019 年度。

科学研究費基盤研究(C)「説得の環境経済学:理論研究とフィールド実験による評価」(研究代表者), 2019-2021 年度。

環境研究総合推進費「持続可能な経済発展に資するプラスチック管理の経済・政策研究」(研究分担者)(研究代表者:山本雅資), 2021 年度-2025 年度。

## C. 受賞

2014 年度 環境経済・政策学会奨励賞

---

## 7. 学外活動

### (a) 他大学講師等

筑波大学社会工学類 非常勤講師 担当科目「国際開発論」(2018 年度)

### (b) 所属学会および学術活動

環境経済・政策学会(理事(2020 年度 - 2023 年度), 学会誌『環境経済・政策研究』編集委員(2011 年度 - ), 大会プログラム委員(2018, 2019, 2022 年度), 大会ベストポスター賞選考委員(2019 年度))

日本経済学会

開発経済学会

環境・資源経済学会 (Association of Environmental and Resource Economists)

ヨーロッパ環境・資源経済学会 (European Association of Environmental and Resource Economists)

アメリカ経済学会 (American Economic Association)

ヨーロッパ経済学会 (European Economic Association)

廃棄物資源循環学会

### (c) 公開講座・開放講座

第 53 回一橋祭 四学部合同公開講義「経済学で気候変動問題に取り組む」(2022 年 11 月 19 日)。

### (e) その他(公的機関・各種団体・民間企業等における講演等)

講演「エネルギー・環境分野における RCT の現状と課題:環境経済学と政策形成」, 経済産業研究所(RIETI) 政策シンポジウム エビデンスに基づく政策立案を根付かせるために, 東京・赤坂, 2018 年 12 月 14 日。

講演「子供たちの未来を助ける: 公衆衛生改善のための説得的コミュニケーション・ツールの評価」, 東京財団政策研究所フォーラム フューチャー・デザイン・ワークショップ 2019, 東京, 2019 年 1 月 26 日。

財務省 財務総合政策研究所 財政経済理論研修 講師(2022 年 4 月から 5 月)

講演「日本のワイン製造者の気候変動に関する認識と対策に関するアンケート結果速報」 農林水産政策研究所 第 1 回オンラインセミナー日本のワインづくり×脱温暖化(2022 年 8 月 31 日)

講演「気候変動と日本のワイン産業」 農林水産政策研究所 第 2 回オンラインセミナー日本のワインづくり×脱温暖化(2023 年 1 月 31 日)

---

## 8. 官公庁各種審議会・委員会等における活動

環境省 日本版ナッジ・ユニット(BEST)連絡会議委員(2018 年 5 月 - 現在)

経済産業研究所 日本におけるエビデンスに基づく政策の推進プロジェクト・メンバー(2016 年 2 月 - 現在)

環境省 低炭素型の行動変容を促す情報発信(ナッジ)等による家庭等の自発的対策推進事業・内部検討会委員(2018 年度, 2019 年度, 2020 年度)

環境省 ライフスタイルシフトに向けた効果的な情報発信調査業務 調査・設計(2019 年度)

環境省 グリーンライフ・ポイント推進事業効果検証等事業アドバイザー(2022 年度)

---

## 9. 一般的言論活動

「インドネシアのユニークな廃棄物管理・リサイクル政策」, 国立環境研究所ニュース, 2018 年 10 月 31 日。

「2019 年ノーベル経済学賞から考える「ランダム化比較試験(RCT)」について: 環境政策を「検証」できる?」, 国立環境研究所 社会環境システム研究センター・ウェブサイト TOPICS 記事, 2019 年 11 月 8 日。

対談記事「望ましい環境政策デザインに向けて」『経済セミナー』特集「気候変動にどう向き合うか?」, 2021 年 12 月・2022 年 1 月号。

「炭素税への「誤解」? 家計の負担増とは限らない」『週刊東洋経済』経済学者が読み解く現代社会のリアル, 2022 年 2 月 12 日号。